

【体が警告！ 背中への痛みを潜む病気】気づきにくい性感染症の拡大 若い女性に多い「フィッツ・ヒュー・カーティス症候群」

健康・医療

2022/5/26 06:30

背中への痛みに関わる内臓の病気はいろいろある。左肩に近い付近の痛みは、心臓の病気に関わることがあり、腰の付近は脾臓や腎臓、右脇腹から背中にかけては肝臓など、さまざまな病気が想定される。若い女性に多く見られる背中への痛みには、意外な病気もあるという。



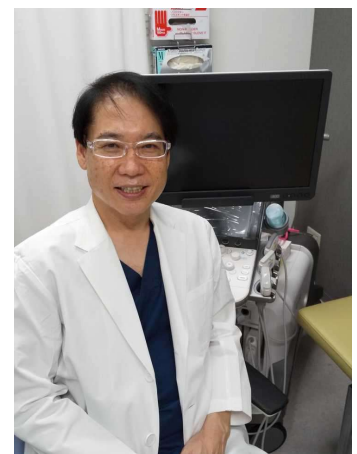
あれこれ検索して疑わしい症状にたどりつくこともある。まずは医療機関へ

「肝臓を覆う肝被膜（かんひまく）に炎症が起こる『フィッツ・ヒュー・カーティス症候群』で、背中への痛みを訴える女性の患者さんは少なくありません。原因は、性器クラミジア感染症（別項参照）で、炎症が広がった結果、肝被膜炎を起こすのです」

こう説明するのは、東邦大学医療センター大橋病院消化器内科の渡邊学臨床教授。肝臓病の診断・治療を数多く手掛け、近隣のクリニックから患者を紹介されるケースが多い。その中に、フィッツ・ヒュー・カーティス症候群で背中への痛みを訴える若い女性がいるのだ。

「肝臓に炎症が起こる肝炎なら診断はつきやすいのですが、肝臓を覆う被膜の炎症なので、クリニックでは診断が難しい場合があります。ご本人も性器クラミジア感染症の自覚症状が乏しいため、気づかないのです」

性器クラミジア感染症では、男性は尿道炎などを引き起こすが、女性の場合は、子宮頸管炎などを起こしても自覚症状に乏しいことが多い。潜伏期間も2～3週間と長いため、感染に気づかないことがある。炎症が子宮の外にも及び、骨盤内から腹部の後方の後腹膜



東邦大学医療センター大橋病院消化器内科・渡邊学臨床教授

に病原体が侵入し、肝臓に到達して肝被膜に炎症を起こすのが、フィッツ・ヒュー・カーティス症候群だ。

「患者さんは、咳をしたり、深呼吸をすると背中が痛いといわれます。飛び跳ねても痛い。筋肉痛とは異なる痛みで心配になってクリニックを受診し、こちらの科へ紹介されるケースが多いです」

肝被膜炎は、文字どおり肝臓の膜に生じる炎症ゆえに、肝臓そのものの大きさは超音波検査でもあまり変わらない。つまり、診断がつけにくい。肝臓の専門医であれば、「若い女性、右脇腹や背中での痛み」といったキーワードで、フィッツ・ヒュー・カーティス症候群を疑う。婦人科の検査で性器クラミジア感染症の有無も調べるなど、多角的な検査で肝被膜炎を突き止める。

「フィッツ・ヒュー・カーティス症候群は、淋菌に感染して起こる性感染症の淋病でも起こります。淋病も、男性は尿道炎などで気づきやすいのですが、女性は自覚症状にやはり乏しい。知らぬ間に感染していることもあるので注意が必要です」

性感染症は、不特定多数の人との性行為で感染リスクが上がる。右脇腹や背中での痛みなど、体調異変に気づいたらとにかく医療機関へ早めに受診を。放置しないことが大切である。（取材・安達純子）

■渡邊学（わたなべ・まなぶ） 東邦大学医療センター大橋病院消化器内科臨床教授。1981年東邦大学医学部卒。米・南カリフォルニア大学肝臓病センター留学、東邦大学医療センター大森病院消化器内科准教授などを経て、2017年から現職。肝臓病の診断・治療、特にIVR（インターベンショナルラジオロジー）治療を得意としている。

■性器クラミジア感染症とは

クラミジア・トラコマチスという病原体による感染症。性行為によって若い男女が感染するケースが多いとされる。潜伏期間は2～3週間。男性は尿道炎などを引き起こす。女性は、子宮頸管炎や骨盤内付属器炎、不妊などになるが、自覚症状に乏しい場合が多い。治療は抗菌薬の服用。パートナーと同時に治療することが大切となる。

※国立感染症研究所の資料より抜粋